

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

2. 調査の対象

- 小学校及び義務教育学校前期課程 第6学年（学校数：13校 859人参加）
- 中学校及び義務教育学校後期課程 第3学年（学校数：8校 826人参加）

3. 実施日

- 令和7年4月17日（木）
- 令和7年4月14日～17日のうち1日（中学校理科）

4. 調査の内容

- 教科に関する調査
（小学校：国、算、理 / 中学校：国、数、理）
- 生活習慣や学習環境等に関する質問調査
（児童生徒に対する調査 / 学校に対する調査）

※中学校理科及び質問調査はオンライン実施

CBT及びIRTについて

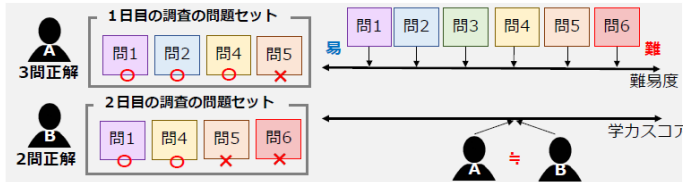
令和8年度は中学校英語で実施の計画
令和9年度以降、全面移行の計画

- CBT：コンピュータ使用型調査
- IRT：児童生徒の正答・誤答について、問題の難易度を考慮して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

【メリット等】

- 各設問の正誤パターンから学力を推定し、スコアは500を基準にして表す。
- 異なる問題からなるテストの結果を互いに比較することができる。
- ICT端末上で出題・解答することで、多様な方法・環境での出題・解答が可能になる。

調査日を分散して実施する（調査参加日が異なる）場合



生徒Aは生徒Bとは異なる問題セットに解答し、その正答数は異なるが、IRTに基づいて算出されるスコアはほぼ同じと推定される。
（PISA, TOEIC・TOEFL等の英語資格、共用試験等で採用されている。）

（参考）文部科学省：令和7年度以降の全国学力・学習状況調査のCBTでの実施について

教科に関する結果

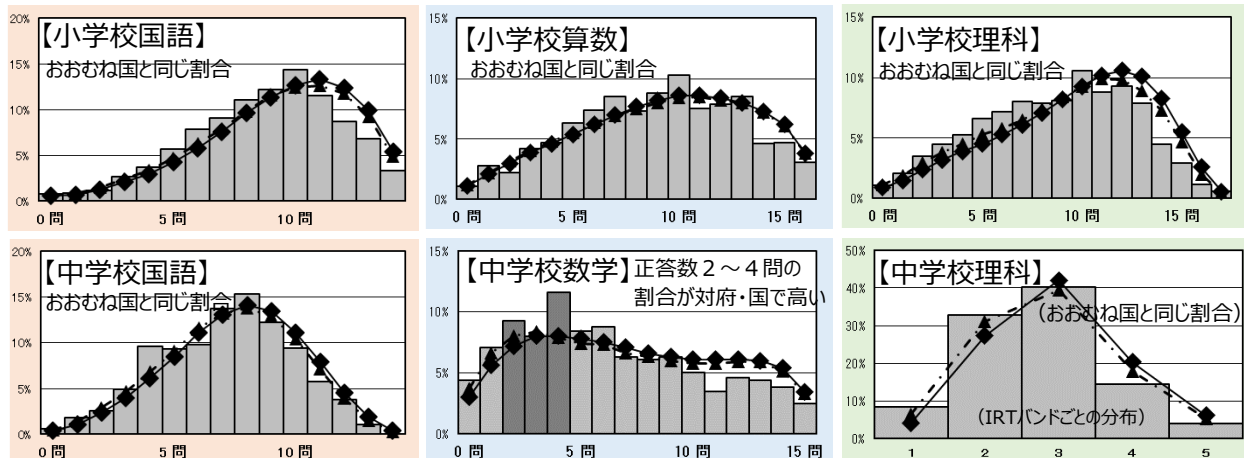
R1以降全国平均との差はほぼ1問以内であるものの、差が縮まっていないことが課題

大阪府・全国はいずれも公立の数値

平均正答数 (中学校理科は平均IRTスコア)		守口市 (問)	大阪府 (問)	全国 (問)	R7 対府比 (R6との比較)	R6 対府比	R7 対国比 (R6との比較)	R6 対国比
小学校	国語（14問中）	8.7	9.2	9.4	0.94 (0)	0.94	0.92 (+0.01)	0.91
	算数（16問中）	8.9	9.2	9.3	0.96 (+0.01)	0.95	0.95 (+0.01)	0.94
	理科（17問中）	8.6	9.3	9.7	0.92	調査なし	0.88	調査なし
中学校	国語（14問中）	7.1	7.3	7.6	0.97 (+0.01)	0.96	0.93 (-0.02)	0.95
	数学（15問中）	6.3	7.0	7.2	0.90 (-0.03)	0.93	0.87 (-0.04)	0.91
	理科（CBT方式）	470	487	503	0.96	調査なし	0.93	調査なし

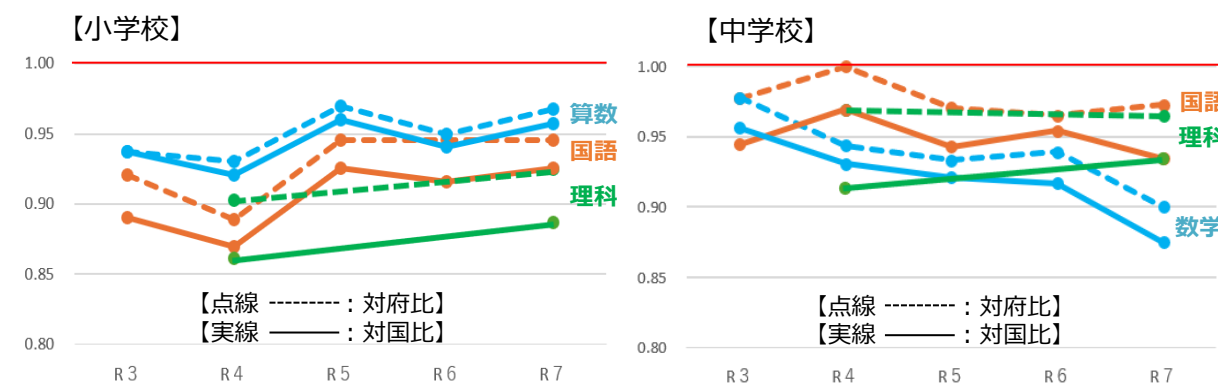
正答数分布グラフ（横：正答数、縦：割合）

守口市 -▲- 大阪府 -◆- 全国



IRTバンド：IRTスコアを1～5段階で区切ったもの。
3が基準のバンドとなる。

守口市経年比較グラフ（対府比・対国比 R3～R7）



問題別の主な状況

○成果 ●課題（ ）内は平均正答率

小学校
国語

- 漢字を文中で正しく使うことを問う問題2問（80.7%・68.2%）、語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかを問う問題（61.0%）では、府・全国の平均正答率と近い数値であった。
- 記述式の問題2問（55.6%・45.9%）について、府・全国の平均正答率を大きく下回った。

算数

- 台形の意味や性質について理解しているかどうかを問う問題（53.7%）では、府・国の平均正答率を上回った。

- コンパスを用いての作図の仕方を問う問題（51.1%）異分母の分数を計算する問題（78.4%）など、基礎的な知識及び技能が求められる問題で、府・全国の平均正答率を大きく下回った。

理科

- 水の温まり方について、実験に対するまとめを導き出すために、実験方法が適切であったかを再検討できるかを問う問題（49.6%）では、府の平均正答率を上回った。

- 記述式の問題2問（52.6%・19.9%）について共に府・全国の平均正答率を大きく下回った。

中学校
国語

- 目的に応じて、集めた資料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかを問う問題（83.4%）では、府・全国の平均正答率を上回った。
- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかを問う問題（23.8%）では、府・全国の平均正答率を大きく下回った。

数学

- 正方形が回転移動したとき、回転前後で対応する頂点を選択する問題（68.4%）では、府・全国の平均正答率を上回った。
- 目的に応じて式を変形し、その意味を読み取り、事柄が成り立つ理由を説明する問題（35.0%）、記述式の問題で、府・全国の平均正答率を大きく下回った。

理科

- 塩素の元素記号を問う問題（47.3%）など、基礎的な知識及び技能が求められる問題で、府・全国の平均正答率を上回った。
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈する問題（22.4%）など、思考力・判断力・表現力を問う問題で府・全国の平均正答率を大きく下回った。

今後の授業づくりで大切にしたいこと

- 国語：条件にあった情報を収集し、文章等で表現するなどの言語活動を充実すること
- 算数・数学：自分の考えを形成したり、考えた理由を説明する活動を充実すること
- 理科：課題に応じて自ら問題を発見し、実験・観察を行い、結論の導き出すような活動を充実すること

調査問題については、「学習指導要領が求める資質・能力がどのようなものであるか、具体的なメッセージとして示すもの」としている。（参照：「全国的な学力調査の今後の改善方策について」）このことを踏まえて、以下の2つを重視していく。

- 子ども自身が「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究的な学習過程を意識して学習に取り組めるような授業づくりが必要。その過程の中で、基礎的な知識・技能を活用・発揮する場面を設定することなどが求められる。
- 基礎的な知識及び技能の定着に対しては、児童生徒が、自分の理解度や自分にとって最適なペース、方法で学びを調整できるような学習が求められる。学習内容だけでなく、そのような「学び方」への指導も必要。

- ◆児童生徒質問調査から、ICTの活用に関して守口市には強みがあることが明らかになっている。ICTの活用により、児童生徒が情報を収集し、整理して表現するなどの学習に取り組みやすくなる。また、これらの活動をクラウド上で行うことで、友だちの考え方の参照や、意見の即時共有などが可能となる。
→①②を充実させるために、児童生徒がICT（クラウド）を活用して学びを進めることが極めて重要。

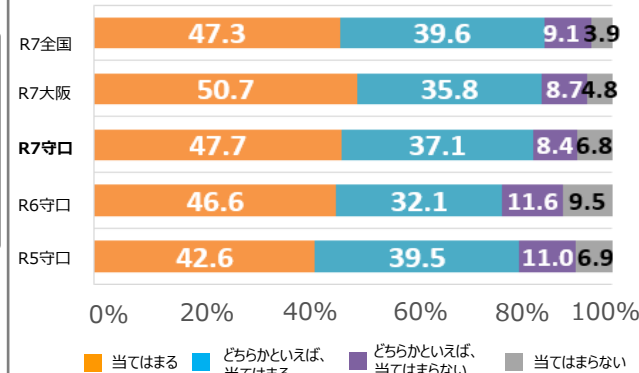
児童生徒質問・学校質問調査結果

児童生徒質問調査

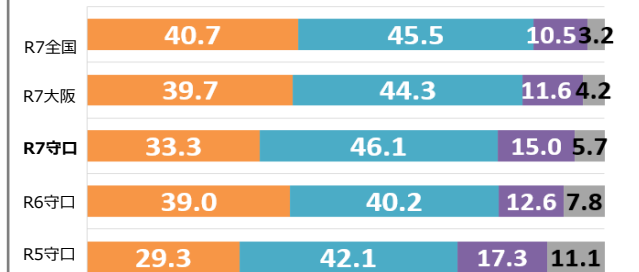
自己肯定感

小学校

自分には、よいところがあると思いますか

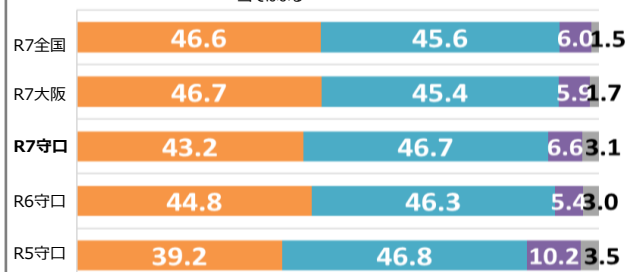
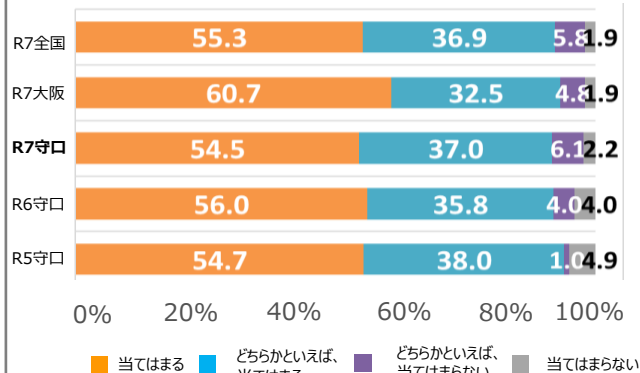


中学校



「自分には、よいところがある」と回答した割合が、増加の傾向にある。今回は特に、小学校で大きく増加しており、80%以上が肯定的に回答している。

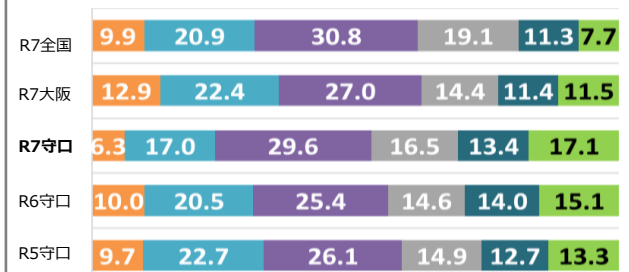
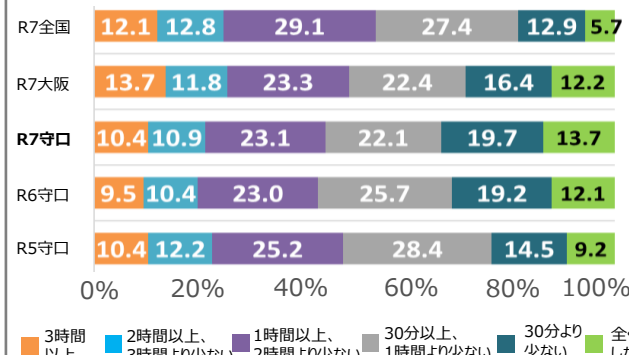
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



「先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う」と回答した割合は90%で高い数値を維持している。教職員の児童生徒への丁寧な関わりが、結果に表れていると考えられる。

学習習慣

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

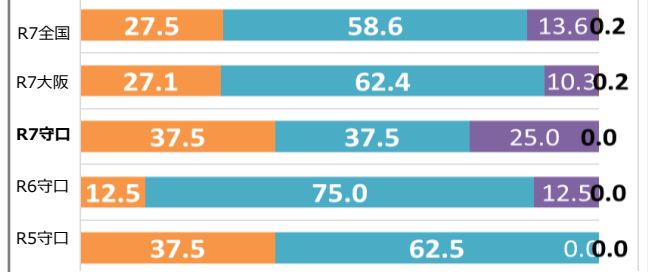
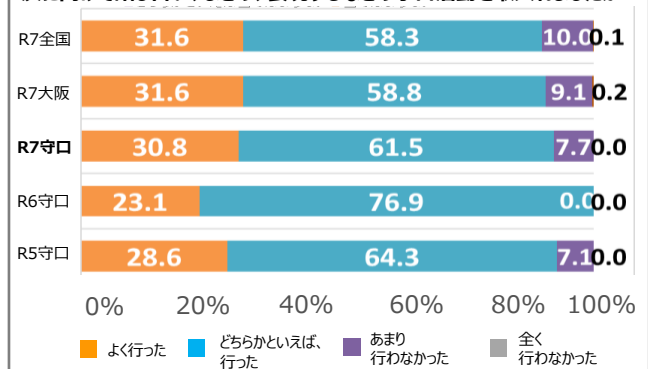


学校の授業以外の勉強時間は、小・中学校とともに減少している。自分にとって必要な学習を、自分のペースで進められるような、自らの学習を調整するための指導が必要である。

学校質問調査

探究の学習過程

授業において児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その課題の解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

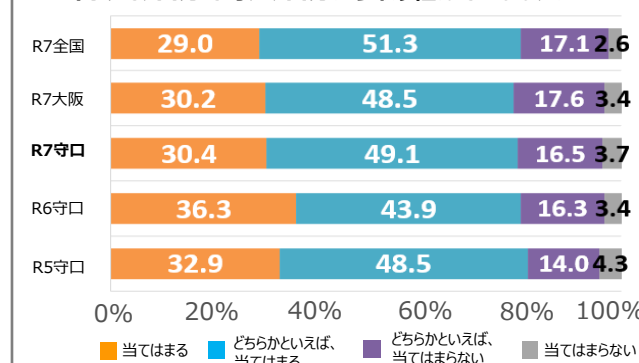


「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究のサイクル（※1）を意識した授業づくりについて、小学校では全国を上回っている。今後も探究のサイクルを意識した授業改善を継続していく。

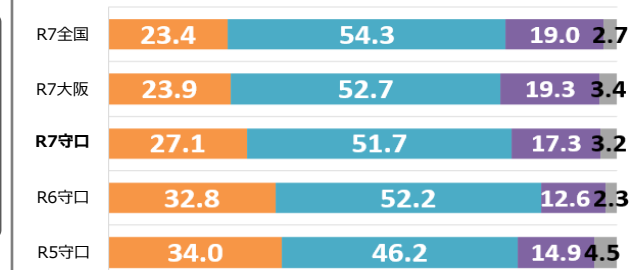
授業改善

小学校

5年生（1・2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

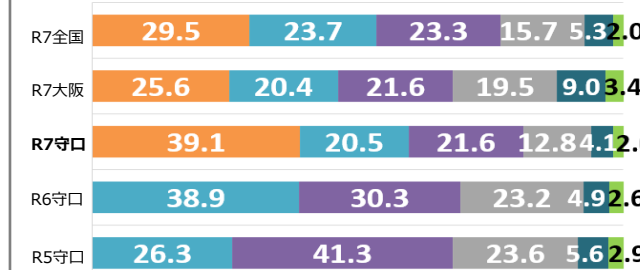
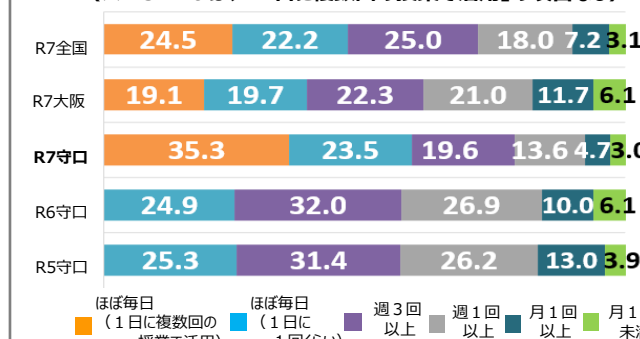


中学校

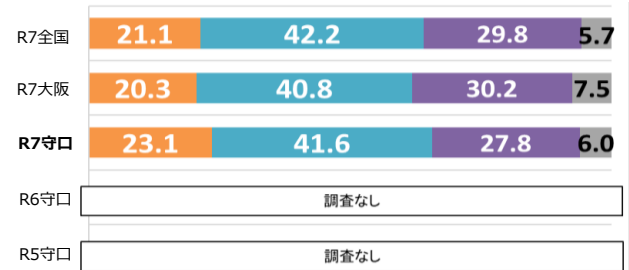
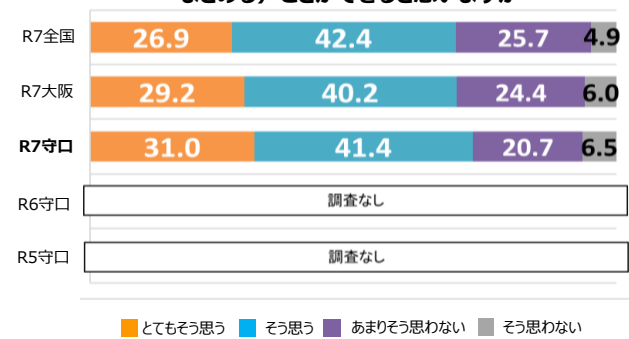


上記項目に肯定的に回答した割合が小・中学校とともに府を上回ったが、昨年度から減少している。今後も児童生徒が主体的に学習に取り組めるよう、授業改善に努める。

5年生（1・2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか（※R5・R6は、「1日に複数回の授業で活用」の項目なし）



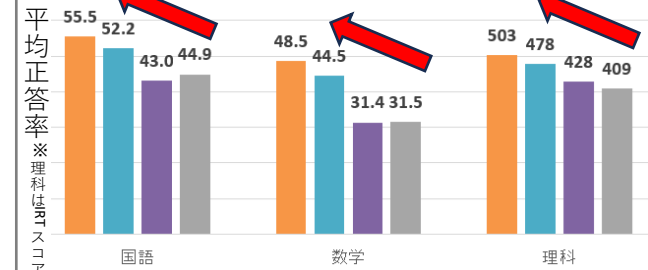
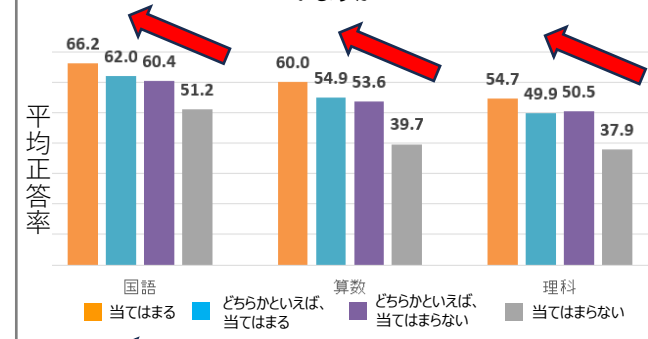
あなたは自分がPCやタブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどをつかってまとめる）ことができると感じますか



授業でほぼ毎日ICT機器を使用したと回答した割合が小学校・中学校ともに、全国・府を大きく上回った。ICT機器（クラウド含む）を活用することについては日常化してきたと考えられる。ICT機器を使って情報を整理すること、思考ツール等を使ってまとめることができると回答した割合も、全国・府を上回った。ICT機器を活用しながら、自分の考えを深めたり、他の人に考えを伝えたりする活動を充実できるよう、授業改善に取り組んでいく。

児童生徒質問と教科調査のクロス集計

総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



探究のサイクル(※1)を意識して学習活動に取り組んでいることに肯定的な回答をしている児童生徒ほど、教科調査の平均正答率が高い傾向にある。今後も探究のサイクルを意識した授業改善が重要である。